

元気で暮らそう 家族の健康

子どものけが 肘、股関節を痛がるとき

栗原整形外科
副院長 栗原 友介先生

こどものけがは、保護者が目を離したすきに起こることで、受傷状況がわからないことがよくあります。また、けがとは別の部位を痛がることもしばしば起こります。判断に困るようなときは、たいしたことがなさそうでも早めに医療機関を受診しましょう。

今回は、肘と股関節を痛がる場合について、説明します。

肘の痛み

乳幼児では急に手を引っ張られたり、腕を下にして転んだりした際に、肘内障と呼ばれる、靱帯の脱臼がよく起こります。整復（もとの正常な状態に直すこと）は比較的簡単で、自然に



整復されることもある心配のない外傷です。しかし、肘内障に似た症状でレントゲンを撮ると肘の周辺に骨折のあることがあります。肘周辺の骨折は子どもにも多く、後遺症を残すおそれがあり、適切な治療を要します。また、野球など投球動作の多いスポーツを行う子どもには肘の障害が多く、早期に適切な治療を行わないと治療が長期化したり、障害が残ることもあります。

股関節の痛み

乳児では、先天性股関節脱臼や白蓋形成不全股関節といった先天疾患が重大な後遺障害を残す疾患として有名ですが、近年では乳児健診により早期発見早期治療が行われるようになり、後遺障害の発生は激減しています。

幼児では、急に股関節を痛がる場合、単純性股関節炎と呼ばれる炎症性疾患であることが最も多く、数日から数週間で自然治癒します。しかし、初期症状がよく似ているペルテス病、大腿骨頭すべり症といった病気は適切な治療が行われても後遺症を残すことのある重大な疾患なので、同じように股関節を痛がっていても、どの病気かわけることが重要になります。